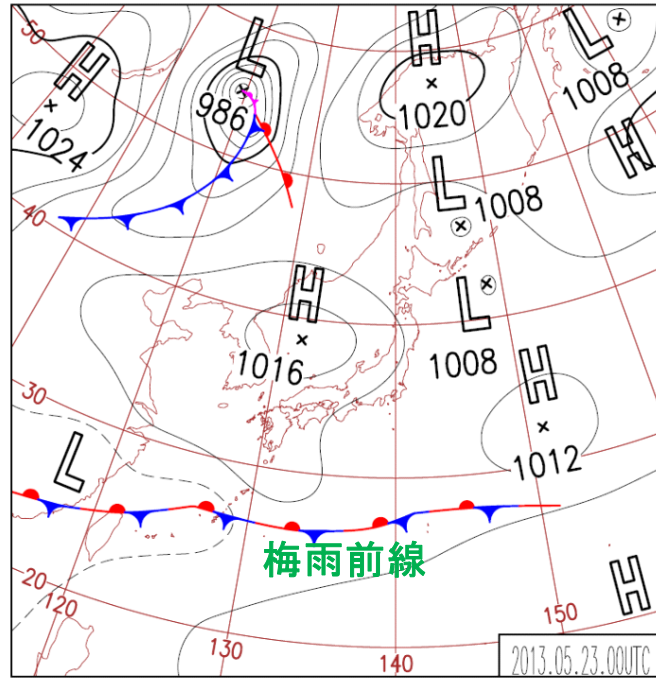


コラム：梅雨の時期が近づいています

梅雨は、春から夏に移行するときに現れる季節現象です。沖縄の梅雨は本州の梅雨に比べると約1ヶ月早く、平年の梅雨入りは5月9日ごろ、梅雨明けは6月23日ごろです。この期間が二十四節季の「小満」と「芒種」にあたっているため、沖縄ではこの雨季を「スーマン（小満）ボース（芒種）」と呼んでいます。

梅雨入りすると、沖縄近海に梅雨前線が停滞し、この前線に吹き込む南からの暖かく湿った空気によって雨の日が多くなります。積乱雲が発達すると大雨や集中豪雨が発生します。このため、大雨による浸水害や土砂災害の発生しやすい時期ですが、梅雨明け後の盛夏期に必要な農業用水を蓄える時期でもあります。

平成25年5月23日9時



気象庁マスコットキャラクター
はれるん

天気図の説明(梅雨期間の天気図：平成25年5月23日)

梅雨入り(この年は5月11日ごろ)後の5月23日には、沖縄地方付近では、梅雨前線の活動が活発となって、沖縄本島南部を中心に非常に激しい雨が降り、那覇では日降水量204.0mmを観測しました。これは梅雨時期の1か月分の降水量に相当します。豊見城市などでは、がけ崩れの被害がありました。(下写真)



豊見城市で発生したがけ崩れ(5月24日沖縄気象台撮影)

梅雨時期(5月と6月)の降水量の平年値

降水量 平年値	5月 (mm)	6月 (mm)
那覇	231.6	247.2
南大東島	200.6	186.1
宮古島	207.7	185.5
石垣島	206.6	206.6

沖縄気象台提供